

www.jwing.net
mail@jwing.net

ヨーロッパ特集2022



ヨーロッパ観光委員会 (ETC)

ヨーロッパ観光委員会(ETC) 日本支部を開設

ツーリズムEXPOへの出展など、 日本市場に注力

欧州連合 (EU) 地域の観光プロモーションを担うヨーロッパ観光委員会 (ETC) は、新たに日本支部を開設、日本での活動に力を入れている。9月22~25日に東京で開催される「ツーリズムEXPOジャパン」には、EU加盟7か国が参加する「EUROPE共同ブース」を出展。今後は日本マーケットに向けて、「多様性のあるヨーロッパ」を積極的に訴求していく考えだ。現在、日本支部の委員長を務めるVisit Finland日本支局代表兼フィンランド大使館商務部上席商務官の沼田晃一氏 (写真) に話を伺った。



日本を含む長距離市場へ向けた 共同プロモーション組織

ETCは1948年に設立。ヨーロッパの各観光局の連合体として、ヨーロッパ以外の長距離市場へ向けたプロモーションを担う。当初はアメリカに支部を置き、その後カナダ、ラテンアメリカ(ブラジル)、アジア(中国、オーストラリア、日本)にも支部を設置。日本でも以前活動していたが、その後ストップ、2021年春に改めて活動を再開した形となる。

ETCには、EU35か国/地域の観光局がメンバーになっており、このうち日本支局では12か国の観光局が会員となっている(ポルトガル、スペイン、フランス、モナコ、ドイツ、スイス、イタリア、ポーランド、チェコ、オーストリア、フィンランド、エストニア/順不同)。

オンラインでクリスマスイベント ヨーロッパ各国の魅力を紹介

コロナ禍で十分な活動ができないなか、ETCでは、昨年12月11日と12日にオンラインによるクリスマスイベントを開催。「ヨーロッパのクリスマス」と題し、初日は「クリスマスの食の愉しみ」、2日目は「クリスマスの伝統と習慣」をテーマに、9か国の観光局が各国のクリスマスの魅力を紹介した。また日本旅行業協会(JATA)のアウトバウンド促進協議会(JOTC)が協力、BtoCイベントとして、2日間で延べ1000人以上が視聴した。



クリスマスオンラインイベントの様子

ツーリズムEXPOに出展 ETCの認知度アップに

初となるツーリズムEXPOジャパンでの「EUROPE共同ブース」出展。出展に合わせ、ベルギーのブリュッセル本部からETCのマーケティング・マネージャーが来日する予定だ。沼田氏は「EXPOを通して、ETCの認知度を上げていきたい」と意気込みを見せる。

同ブースに出展するのは、ポルトガル、フランス、ドイツ、スイス、ポーランド、チェコ、フィンランドの7か国。またこれとは別に、スペインとイタリアが単独ブースで出展。フィンランドは単独でも出展、エストニアはラトビアとエストニアとバルト三国共同で出展する。ほかにもクロアチア、アイスランド、マルタ、キプロスの観光局もEXPOに参加する。



「EUROPE共同ブース」では、業界日には商談スペースとしてデスクを設置。一般日はデスクを置かず、スマートフォンを使ったクイズなど、各国政府観光局が趣向を凝らした一般参加型のイベントを用意するという。

BtoCキャンペーン実施 "Europe Invites the Curious"



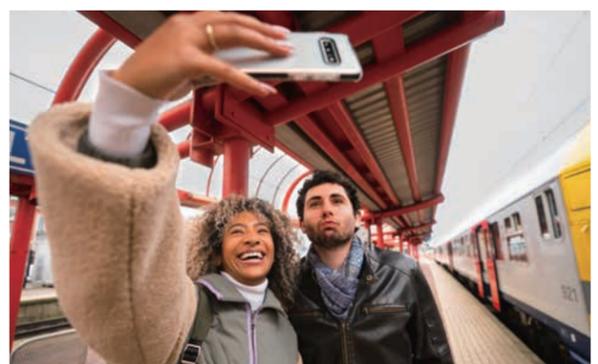
キャンペーンはSNSとヨーロッパ公式旅行情報サイト「visiteurope.com」で展開

秋にはヨーロッパへの旅行需要喚起を目的としたSNSを使ったBtoCキャンペーンを実施する予定。「Europe Invites the Curious」(私の好奇心をくすぐるヨーロッパ)

と題し、SNSでの投稿を募集。ヨーロッパの魅力を核となる「都市」「カルチャー」「食文化」にフォーカスした内容となる。

旅行会社へのサポートも 「旅のイメージが膨らむヨーロッパ」に

一方、引き続きJOTCと連携しながら、旅行会社へのサポートも強化していく意向。具体的には、旅行会社が主催する顧客向けの旅行説明会にETCとして参加することも検討する。沼田氏は「例えば、祭りやSPA、音楽など、共通のテーマで各国がプレゼンテーションできる。多様性のあるヨーロッパならではの強み」と、意欲を示す。



ヨーロッパについて、沼田氏は「ヨーロッパは、旅の想像力が膨らむ言葉。良いイメージを膨らませてもらえるようプロモーションをしていきたい」と語る。また旅行

会社にとっては「利益率の高さ」も大きなポイント。さらに「JOTCや旅行会社からもヨーロッパに対する期待は大きく、それに応えていきたい」と、今後の抱負を語った。

週刊ウイングトラベル

CONTENTS ヨーロッパ特集 2022

- ヨーロッパ観光委員会(ETC) ②
- フィンエア ③
- ポストコロナ、ウィズコロナの時代に
マッチする旅行素材 ④ ⑤
- ドイツ観光局 ⑥
- ルフトハンザグループ ⑦
- ポーランド政府観光局 ⑧
- ターキッシュ エアラインズ ⑨ ⑩

Wing Travel "Europe Special 2022"

【表紙クレジット】(上から1段目、左から) ©DZT Julia Nimke、©Investment and Development Agency of Latvia、©Muzeum Zamkowe w Malborku、©Crown Copyright 2022 (上から2段目、左から) ©スイス政府観光局、©プロモートアイスランド社、©Visit Portugal、©Dolni Morava Mountain Resort (上から3段目左から) ©Visit Finland、©Renees Altrov, Visit Estonia、©マルタ観光局、©Paris Tourist Office Photographie Daniel Thierry (上から4段目、左から2番目と3番目) ©Lithuania Travel、©イタリア政府観光局 (上から5段目、左から1番目、2番目、4番目) ©キプロス共和国観光担当省、photo: ENIT-Agenzia Nazionale del Turismo、©Luka Esenko/クロアチア政府観光局

フィンエアー

FINNAIR

冬期より羽田-ヘルシンキ直行便をデイリー運航
～現在も成田-ヘルシンキ直行便をデイリー運航

新型コロナウイルスの感染拡大や、ロシア・ウクライナ情勢により、日本-欧州路線の航空便の運航環境に影響が出るなか、フィンエアーは成田空港からヘルシンキへの運航を継続。直行便を毎日運航している。2022年冬期からは、羽田-ヘルシンキ線を新規開設し、当期間は成田便を運休の予定。また日本-欧州間においては、日本航空、ブリティッシュ・エアウェイズ、イベリア航空との共同事業を行っている。



フィンエアーは、東京の他にも大阪、名古屋、札幌、福岡から運航していたが、渡航制限を始め、昨今の状況を受けて現在は運休となっている。しかしこれらの発地からでも、国内線の接続便が充実している羽田を利用すれば、今後は日本から最も近いヨーロッパの玄関口であるヘルシンキにスムーズに移動できる。

飛行ルートについては現在、ロシア領空を回避したルートに変更。これにより、所要時間は約13時間となるが、ヘルシンキから各都市への接続が良いため、北欧各地やヨーロッパ主要都市へ効率よく移動できる。たとえば日本を夜に出発すると現地時間の翌日早朝にヘルシンキに到着する。その後ヨーロッパ各都市に午前中に到着することが可能だ。



冬期運航スケジュール（2022年10月30日～2023年3月25日）

出発地	到着地	便名	出発時間	到達時間	運航曜日
羽田	ヘルシンキ	AY062	21:55	04:25+1	毎日
ヘルシンキ	羽田	AY061	17:55	14:25+1	毎日

※2022年9月1日現在

※発着枠調整中により上記スケジュールが変更になる可能性がある。

長距離路線のビジネスクラスやプレエコを強化

フィンエアーでは長距離路線のリニューアルに着手している。具体的にはエアバスA350型機とA330型機を対象に、ビジネスクラスの刷新とプレミアムエコノミーの導入を進めている。リニューアルは順次行われており、すでに今年5月からはプレミアムエコノミーのサービスを導入開始。2023年にかけて対象機材のリニューアルを完了する計画だ。

ビジネスクラス 快適さとプライバシーの追求をさらに徹底



刷新されたビジネスクラスは最大43席で1-2-1の配列となり、全席から通路へアクセスできるようレイアウト。ベッドにもなるシートは、コリンズ・エアロスペース社との共同開発によるシェル型シート「AirLounge」で、アメニティキットや寝具類（枕とデュベ）は北欧を代表するデザインブランドであるマリメッコのデザインを採用している。

機内エンターテインメントは18インチの個人用モニターで楽しむことができ、AC電源及びUSBポート（タイプAとC）、携帯電話のワイヤレス充電が可能、ノートPC等を収納する十分なスペースを装備している。

食事はメイン料理を3つのメニューから選べるコース料理の他、軽食や朝食サービスが提供される。さらに、機内に設けられたスナックバーでは、軽食類や飲み物が用意されている。食器はフィンエアーのためにデザインされた、フィンランドのブランド「イッタラ」を採用。高級感を演出している。

新導入のプレミアムエコノミー より広くゆとりある空間を確保



長距離路線に順次導入されるプレミアムエコノミーは、シートリクライニングが可能な広い座席空間を確保し、フルレングスのレッグレストも装備している。またメモリーフォームクッションやフレキシブルなヘッドレストの採用で快適性を高めているだけでなく、マリメッコデザインのネックピローやブランケット、アメニティキットも提供する。機内エンターテインメント用に13インチの個人用モニターやユニバーサル電源、USBポート（タイプA）を各座席に装備。

食事はメイン料理を2つのメニューから選べるコース料理の他、朝食または軽食が提供される。食器はビジネスクラスと同様に「イッタラ」を使用している。

エコノミークラス 全体を北欧らしいデザインで統一



最大で265席、3-3-3の配列となるエコノミークラスは、マリメッコの枕とブランケットを採用し、キャビン全体が北欧らしさを感じさせる雰囲気だ。また、メモリーフォームクッションやフレキシブルなヘッドレスト、12インチの個人用モニターを装備し、フライト中の快適性にも最大限に配慮している。食事は温かい料理とノンアルコール飲料を無料で提供し、最初の食事ではグラスワインかビールの提供も無料。

ヘルシンキ空港内に
3つのフィンエアーラウンジ

日本からのフライトが到着するヘルシンキ・ヴァンター空港は、フィンエアーの拠点空港だ。乗り継ぎ利便性に配慮した構造で、日本便からの乗り継ぎ所要時間（MCT）が40分と短い、機能的な空港だ。また日本のICパスポートを持っていればヘルシンキでの入国・出国の際は自動化ゲートも利用可能で混雑回避ができる。

空港でのセキュリティ検査には最先端技術が導入されており、日本への帰国時には、ノートPCや携帯電話、液体容器（100ml未満）などを手荷物の中から出す必要なくチェックを受けられる。

空港では拡張工事が進行中で2021年冬から新施設の利用も開始しており、フィンエアーが使用するターミナル2では、すでにチェックインからセキュリティ検査までの動線に沿った施設を刷新済みだ。

フィンエアーは空港内のシェンゲン協定加盟国エリア内の1カ所とシェンゲン協定非加盟国エリア内の2カ所に、計3つのラウンジを設けている。ラウンジでは食事やアルコールを楽しんだり、シャワーを浴びてリフレッシュも可能だ。

エシカルな航空会社像を追求

人々の生活を充実させるための持続可能な航空輸送事業を模索するフィンエアーは、新たな時代のエシカルな航空会社像を目指している。この目標達成のために様々な取り組みを開始しているが、たとえばその一つがCO₂排出量を削減するためのバイオ燃料だ。現在はバイオ燃料事業に取り組むネステ社との提携をはじめとし、廃油を原料としたバイオ燃料などの開発に協力している。食品ロスの削減にも取り組み、短距離路線の機内食の事前注文を徹底することで食品廃棄物削減を図っている。

アメニティキットにも、環境への配慮がうかがえる。プラスチック廃棄物を削減するため、コーンスターチから作るバイオプラスチック製の歯ブラシを採用し、包装類も簡素化して大幅な削減に努めている。スタイリッシュで旅客が繰り返し使用したくなる品質のアメニティキットを提供することで、使い捨てを避けるための取り組みも行っている。



アイスランド

Visit Iceland
www.visiticeland.com

人と人の距離を保ちながら大自然を観光



北海道の1.2倍の国土に約37万人が住み、人口密度は日本の約1/100。毎年8月20日頃にオーロラが出現、8月4日からは再び溶岩の流出が始まり、安全を確保してハイキングが可能。火と氷とオーロラの国アイスランドへ是非。

フランス

フランス観光開発機構
jp.france.fr/ja

変わらないパリの美しさ



8月1日より全ての新型コロナウイルス関連の規制が撤廃され、既に世界中から大勢の外国人観光客で賑わいを見せる。2023年にはラグビーワールドカップ、そして2024年にはパリ五輪と、これから一層注目を集めるフランスに是非!
jp.france.fr/ja/paris

イタリア ヴェネツィア

イタリア政府観光局 (ENIT)
www.italia.it/en

歩いて巡るヴェネツィア



イタリア北部、水の都ヴェネツィアの車輪侵入禁止の島の中は、徒歩観光がお勧め。迷路のような街の中、運河を縫っての散策はいいが、美術館巡りやカフェでくつろいだり、思い思いの滞在を楽しむことができる。
動画(YouTube) bit.ly/triptovenice
www.italia.it/en/veneto/venice www.venezianica.it/

ポーランド

ポーランド政府観光局
poland.travel

北ポーランド:中世騎士団の史跡巡りと古城&ステイ



重厚なゴシックレンガのひとつひとつに、つわものたちの栄枯盛衰の歴史が刻みこまれた北ポーランドの古城めぐり。中世騎士団のスタートは中世都市トルン(世界遺産)から。くわしくは本号8ページをチェック!

フィンランド

Visit Finland/フィンランド政府観光局
www.visitfinland.com/ja/

オーロラ観賞



フィンランドの国土の約1/3が北極圏にあたるが、サンタクロースが住んでいる街があることで知られている。8月末頃から秋が始まり、毎年この頃から夜空にオーロラが出現し始める。オーロラの季節は3月末まで続く。

エストニア

エストニア政府観光局
www.visitestonia.com/jp

ボグ・ハイキング



「ボグ」とは「湿原」という意味。エストニア人にとってハイキングはとても身近なアクティビティで、一年を通して楽しめる。コースは、初心者から上級者向けのものまであり、車椅子の方でも楽しめるコースもある。
www.visitestonia.com/en/why-estonia/op-10-hiking-trails/jp

英国ウェールズ

英国ウェールズ政府/Visit Wales(ウェールズ観光局)
www.wales.com/ja

大自然と遺跡・古城・伝説の宝庫



全長120kmの絶景海岸歩道巡り、7つの国立博物館巡り、不思議の国ウェールズ古城巡りなど、「密」にならない広大な中世の世界、さらには青銅器時代・カンブリア紀にまでさかのぼるタイムスリップが楽しめる。

ドイツ

ドイツ観光局
www.germany.travel/en

German.Local.Culture.キャンペーン

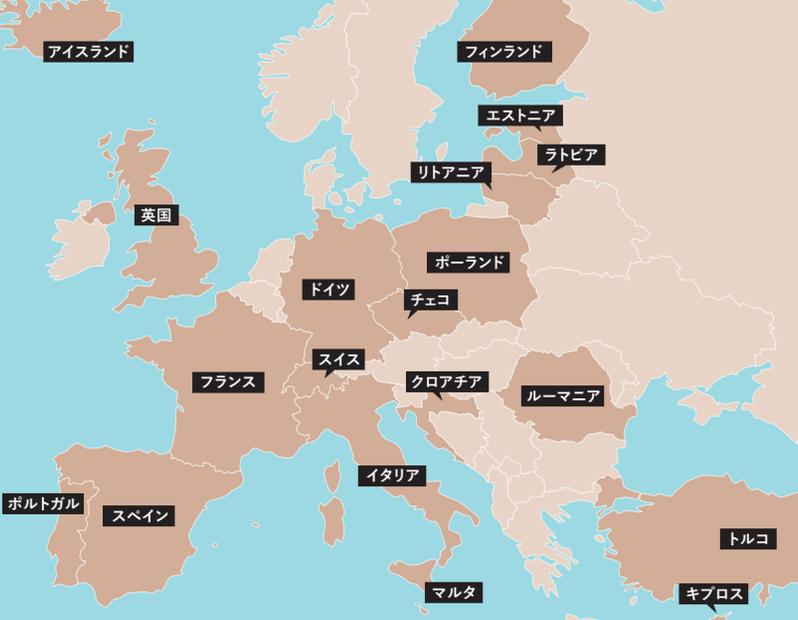


王道ルートから少し離れた場所で見つかるドイツの魅力的な旅の素材を4つのカテゴリー「食(美味しいもの)・緑(自然/サステイナブル)・匠(伝統の職人技)・粋(芸術)」に分けて紹介。
動画(YouTube) www.youtube.com/watch?v=dLSIZYL2LsQ&t=3s
www.germany.travel/en/campaign/german-local-culture-jp-2022/home.html

海外旅行が再開へ向かう中、今の時代にマッチした新しい旅のスタイルが求められている。今回、ツーリズムEXPOジャパンに出展するヨーロッパ各国より、ポストコロナ、ウィズコロナの時代にふさわしい旅行素材を推薦してもらった。



ポストコロナ、ウィズコロナの時代にマッチする旅行素材



ラトビア

ラトビア投資開発公社
www.latvia.travel/ja

ルーラルツーリズム、グリーン・ツーリズム、ファームステイ

ラトビアの魅力は豊かで美しい自然。国土の50%が森林で覆われ、4つある国立公園は春や夏もおすすめでが黄葉する秋は特に美しく彩られる。サステイナブルな旅をするなら民族文化地域を訪れたり、サウナやアウトドアをおすすめ。
www.latvia.travel/en/10-reasons-visit-latvia-autumn

リトアニア

リトアニア政府観光局
www.lithuania.travel/jp/

ルーラルツーリズム、ウェルネスツーリズム、エコツーリズム

澄んだ湖、静かな湿原、神秘的な古代の森。リトアニアには豊かで美しい自然がたくさんある。ビリニウス旧市街散策にプラスして、森での暮らしやサイクリング、古城巡りやキャンプ、または本格的なサウナで心と身体を癒す体験をしてみよう。
www.lithuania.travel/en/category/undiscovered-places

ポルトガル

ポルトガル政府観光局
www.visitportugal.com/ja

ポルトガルワインツーリズム



日本でも人気のフルーティなヴィーニョ・ヴェルデをはじめ、ポルトガルの食文化に欠かせないワイン。自然豊かな場所に点在するワイナリー巡りは、ウィズコロナの今こそおすすめ。魅力的なレストランや宿泊施設を併設するワイナリーにも注目。
www.visitportugal.com/ja/experiencias/gastronomia-e-vinhos

スイス

スイス政府観光局
www.myswiss.jp

大自然から得られる活力とリラクゼーションを体験する旅



スイスは自然環境を意識し、最大限のリラクゼーションを提供することを目的として持続可能な戦略を掲げている。活力が得られる大自然の中でアクティビティや、地産地消、季節ごとの本物の文化体験を提供する。

チェコ

チェコ政府観光局
www.visitczechrepublic.com/ja-JP

自然・美食・体験



なだらかな山々、岩石都市、深い谷や深い森など、チェコの美しい自然は、世界各国から多くの人々を惹きつける。2022年5月にドルニー・モラヴァにオープンした世界最長の吊り橋「スカイブリッジ721」は、アドレナリンが湧き出る新名所。
www.dolnimorava.cz/en/sky-bridge-721

ルーマニア

ルーマニア政府観光局
romaniatourism.com

トゥルダ岩塩坑(サリーナトゥルダ)



北西部トランシルバニア地方にあるかつての岩塩坑。深さ120mの巨大な地下空間は、まるでSFの世界に迷い込んだかのよう。世界でここだけの高さ20mの地下観覧車をはじめ、現在は総合レクリエーション施設となっている。
www.salinaturla.eu

スペイン

スペイン政府観光局
www.spain.info

スペインの最も美しい村



まだあまり知られていない趣のある美しい村々。まぶしいほどの白亜の家並みやユニークな黒いスレート屋根の集落、中世の趣を色濃く残す木製のバルコニーに石畳の小路。地元のパルやレストランで一息つきながら散歩すると、思わぬ感動に出会う。
Sos del Rey Catolico(サラゴサ県)
www.spain.info/ja/toppu/supein-utsukushii-mura-paato-tsuu/

イタリア

イタリア政府観光局 (ENIT)
www.italia.it/en

イタリア列車の旅



鉄道は環境に配慮したサステイナブルな交通手段。美しいイタリアの自然景観を楽しみながら列車の旅はいいが、トレニタリア社の列車インターシティーは自転車スペースも拡充、ラッピング車両で鉄道旅の楽しさを演出している。
visitaly.jp/news/trenitalia-enit/

マルタ

マルタ観光局
www.mtjapan.com

ワイナリー(Ta'Betta Wine Estates)



2019年にデビュー。熟成による可能性を秘めた個性豊かな上質なワインを醸造する。ワイナリーツアーやテイステイング、食事とのペアリング、年代異なるワインの飲み比べ、講座付きテイステイングなど、スペシャルイベントも開催可能。
www.tabetta.com

クロアチア

クロアチア政府観光局
croatia.hr

入国はパスポートのみで可能、マスク着用不要



アドリア海沿いに広がるクロアチア。豊かな文化遺産に彩られ、息を呑むような美しい自然、どこまでも続く海岸線、多様な美食、アドベンチャー、スポーツ、ウェルネスなど、一年中楽しむことができる。

トルコ

トルコ共和国大使館・文化広報参事官室
www.tourismturkey.jp

ベイオール・カルチャー・ルート(イスタンブル)



イスタンブルに誕生した新たなカルチャールート。新客船ターミナル施設「ガラタポート」を起点に、アタテュルク文化センター(AKM)に至るルート沿いにある歴史的建造物を巡るルートとなっている。
mobil.ktb.gov.tr/App/platform/1/Detail/62

キプロス

キプロス観光担当省
www.visitcyprus.com

自然散策路ハイキング(Nature Trails)



地中海の島国キプロスでは、緑豊かな自然も人気の観光素材。海や山の景色を堪能する自然散策路では、地域の人々との交流の機会もあり、本当のキプロスらしさに出会える旅作りが可能。世界遺産などのポイントルートを組み込むことも。

Supported by:

 Federal Ministry
 for Economic Affairs
 and Climate Action
 on the basis of a decision
 by the German Bundestag

ドイツ
 観光の国



www.germany.travel



ドイツ、Withコロナ時代に新たなテーマの観光を訴求

新型コロナウイルスの感染拡大以降国際間の移動が長く制限されてきた。しかし、ここにきて世界は「Withコロナ」の考え方にシフト。入国制限が緩和される中で、日本からの海外旅行についても少しずつではあるが再開の動きが見られてきた。そうした中でドイツ観光局はこれまで日本マーケットで人気が高かった都市と文化観光に加え、最近旅行者から関心が高まっているサステナビリティや自然に着目した新たなテーマの観光を訴求。コロナ前とは違った形のドイツ観光をアピールする。

水際規制の緩和で明るい兆し 2023年にはコロナ前の6割程度の回復見込む

コロナ禍でストップしてきた日本人の海外旅行だが、日本政府による水際対策の緩和により、2022年4月に100カ国以上の感染症危険情報レベルがレベル2に緩和した。これにより2022年第2四半期（4～6月）、ドイツにおける日本人の旅客到着数と宿泊数は日本人の総出国数に比べ高い割合で回復した。

ただ、ウクライナ情勢や円安、燃油サーチャージの高騰など海外旅行を躊躇させる要件が複数存在することもあるのも実情だ。

ただ、9月からは海外渡航における大きなネックの1つとなっていた帰国

前PCR検査について、ワクチン3回接種を条件に撤廃されることとなった。この決定は今後の海外旅行再開に向けた明るい展望につながる1つの大きな話題といえるだろう。

ドイツ観光局は水際対策の緩和状況を踏まえて、2022年末までに日本からの旅行者マーケットについてコロナ前の2019年に比べて25%程度の回復を見込んでいたが、規制緩和が進んだことで、もう少し回復が進むことが期待される。さらに2023年にはコロナ前の6割程度の水準となると見込んでいる。

地方都市の新たな魅力を探る 食や文化、匠の技術などを堪能

海外旅行の本格的な再開を前にドイツ観光局は、ドイツの旅行に想いを馳せるさまざまな素材をアピールしている。その1つが、ドイツの地方都市の

文化や伝統に着目するというものだ。ドイツ観光局は2022年の観光キャンペーンの1つとして「German.Local.Culture.2022キャンペーン」を展開している。これはドイツの伝統や真の姿に憧れを抱く旅行者に今も生き続けている習慣や手工芸の匠の技はもちろん、地域特有の郷土料理の楽しみ方を紹介している。キャンペーンサイトでは「匠」「食」「粹」「緑」という4つのテーマで魅力を紹介。ドイツ観光の新たな魅力をアピールする内容となっている。

また、旅行会社に対してはキャンペーンの内容からおすすめのコツやSNSで反響が大きかった素材をピックアップして紹介していき、全く新しい観光周遊ルートの造成を提案していく。



©Lookphotos Val Thoermer

「German.Local.Culture.2022キャンペーン」マイクロサイト
<https://www.germany.travel/en/campaign/german-local-culture-jp/home.html>

ドイツは持続可能な旅の先進国 海外旅行再開のベストデスティネーション

これに加えて、新たな時代のドイツ観光を提案する素材としてプロモーションに力を入れるのが、サステナビリティ（持続可能性）とドイツ国内における自然の魅力だ。コロナ禍において健康的なライフスタイルを大事にし、環境に配慮する旅行に対する関心が高まっている。そうした旅行層に訴える素材をPRする。

サステナビリティ関連では「Feel Good」キャンペーンを展開する。ドイツはコロナ禍以前から持続可能性に関する取り組みに力を入れており、2022年には政府による持続可能戦略を策定



©DZT Francesco Carovillano

し積極的な取り組みを行っている。今回のキャンペーンでは「グリーンシティ」として地方都市の魅力を紹介するほか、環境に配慮した旅をアピールし、ドイツが多様なサステナビリティ素材を提供しているデスティネーションであることを改めて周知する。

また、自然を求めるレジャー旅行者向けの企画として「Embrace German Natureキャンペーン」も展開。このキャンペーンでは自然とレクリエーションをテーマとし、これまで日本に馴染みが薄かった観光スポットや素材を積極的にアピールしていく。



©DZT Francesco Carovillano

オンライン活用したキャンペーン LINEのチャットボットを活用した企画も

ドイツ観光局は今年重点的に紹介する観光素材の魅力をより一層アピールしていくため、さまざまな企画を展開する。

German.Local.Culture.関連では、SNSやOTAサイトによりクロスメディアキャンペーンを展開する。今回の企画ではファンタスティック街道をデスティネーションパートナーとして迎え、クリスマスのドイツ観光に着目した各種素材をPRする。

さらにドイツ観光局のLINEアカウントを使ったキャンペーンも実施している。これは観光局のLINEアカウントと友だちとなると、チャットボットを

活用してドイツの観光案内をゲーム感覚で楽しむことができる。ここでは地方や田舎の小さな町や村の魅力を街並み、伝統文化、食文化、サステナビリティの各テーマから厳選したコンテンツを紹介している。

自然観光の魅力を訴求するEmbrace German Natureキャンペーン関連では、オンライン旅行メディア「Tabizine」とのクロスメディア企画を実施する。ここでは9月中旬からドナウ川を中心とした東部ドイツ地域を、10月初旬からはベルリンについて、最新現地取材を踏まえて紹介することになっている。

ドイツ観光局 秋のワークショップ「Meet Germany: Off the Beaten Track」開催

ドイツ観光局は11月9日に旅行会社を対象としたオープンワークショップ「ドイツ観光局 秋のワークショップ「Meet Germany: Off the Beaten Track」」を開催する。今回のワークショップは「富裕層マーケット」と「サステナビリティ」に着目し、ドイツ各地の観光サプライヤーが直接最新情報を提供することになっている。

ワークショップの参加は事前登録が必要となっている。日時と開催場所については以下の通り。

日時：2022年11月9日（水） 14:00-17:00
 会場：ホテルグランバツハ銀座東京 2階 ボードルーム

ハブ空港からヨーロッパ各地へ 利便性の高いアクセスを提供

LUFTHANSA GROUP

Network

ルフトハンザグループのネットワーク

ハブ空港であるフランクフルト、ミュンヘン、チューリッヒ、ウィーンからヨーロッパ各地へ充実のネットワークを誇るルフトハンザグループ。主要都市なら複数のハブ空港から多くのフライトを運航しており、時間帯に合わせて幅広い選択肢の中からフライトを選択できる。



Service

機内からオーストリア気分
特別なサービスでおもてなし



オーストリア航空の機内は、まるでオーストリアそのもの。機内に入ると、そこはもうオーストリア。スタッフは、オーストリア流の魅力的な特別サービスでもてなしてくれる。機内サービスへの評価は高い。現在、成田ーウィーン線が運航中だ(夏期スケジュールに運航)。
www.austrian.com

日本路線にはFクラスのある
最新の機材を導入



予約の段階から目的地への到着まで、一貫して快適な旅行体験を提供。日本路線に燃費効率や環境面にも優しい最新鋭の機材を導入。羽田ーフランクフルト線には、ボーイング747-8型機を投入。同機材にはファーストクラスの設定がある。
www.lufthansa.com

プレミアムエコノミーが登場
高品質なサービスを提供



スイスの伝統的な価値観を体現。すべてのプロダクト、サービスにおいて最高の品質を提供する。今年から日本路線でも運航しているボーイング777-300ER型機には、「SWISSプレミアムエコノミー」を設定、ワンランク上のサービスを体験できる。
www.swiss.com

Sustainability

ルフトハンザグループのサステナブルな取り組み

予約時点でカーボンニュートラルの手続きが可能

ルフトハンザグループの各航空会社では、フライト予約の際にカーボンニュートラルな旅行ができる3つのオプションを用意している。

- ① 持続可能な航空燃料(SAF)の利用
- ② 認定済みの気候保護プロジェクトへの参加によるCO2排出量の相殺
- ③ ①と②の組み合わせ

SDGsへの取り組みが企業に求められる今、出張におけるCO2排出量の削減も重要な課題。予約済み、または利用済みのフライトでも、いつでもカーボンオフセットの手続きが簡単に行える。



ウェブサイト上で
カーボンオフセットの手続きが可能

- オーストリア航空
www.austrian.com/jp/ja/carbon-neutral-flying
- ルフトハンザドイツ航空
www.lufthansa.com/jp/ja/offset-flight
- スイス インターナショナル エアラインズ
www.swiss.com/jp/ja/discover/carbon-offsetting



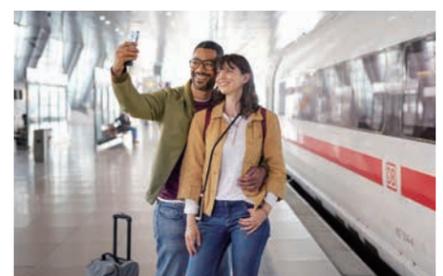
2030年までにCO2排出量を半減
2050年までにカーボンニュートラルを実現

#MakeChangeFly

ルフトハンザグループでは、2030年までのCO2排出量半減(2019年比)、2050年までのカーボンニュートラル実現を目標に掲げている。実現へ向け、幅広い革新的な施策を継続的に取り組んでいる。

行っている施策の一例

- 最新型の機材の導入
- 効率的な運航業務
- 持続可能な航空燃料(SAF)の利用
- カーボンオフセット
- インターモダリティ
- 廃棄物とプラスチックの削減



さまざまな交通手段を組み合わせる
インターモダリティ(イメージ)



Heart of Europe, POLAND

ポーランド北部には、13世紀にこの地を治めたチュートン騎士団やドイツ騎士団ゆかりの古城をはじめとする多くのゴシック建築が今に残る。レンガでできたその重厚なフォルムは印象的。現在は「ヨーロッパ・ゴシック・レンガ街道」として貴重な歴史的建造物に登録されている。世界遺産のトルンからバルト海の港湾都市グダンスクまで、北ポーランドの「ゴシック街道」として新たに提案したい。

European Route of Brick Gothic
中世都市トルン

北ポーランド「ゴシック街道」 古城めぐりで中世騎士団の足跡をたどる

1 トルン Toruń 世界遺産

中世に繁栄を極めた商都 コペルニクスの生誕地

首都ワルシャワに近く、旧市街にはレンガ造りのゴシック様式の建物が数多く残る。バルト海へそそぐヴィスワ川の重要な地の利を活かし、中世は商都として繁栄を極めた。地動説を唱えたコペルニクス生誕の地としても有名。



コペルニクスの生家

5 クフィヅイン城

かつての城が博物館に チュートン騎士団の歴史を知る

チュートン騎士団の拠点のひとつで、14~17世紀にかけて、ポメサニア司教区を中心として栄えた。20年をかけて完成した城は、現在博物館に。騎士団の歴代3名の総長の墓所をほぼ忠実に再現した展示は必見。



2 ヘウムノ Chełmno

チュートン騎士団の拠点 聖バルンタインゆかりの町

13世紀初頭にチュートン騎士団がこの地を拠点に活躍。第2次世界大戦の戦火を免れ、ゴシック様式の教会やルネサンス様式の市庁舎がそのまま残る(写真)。聖バルンタインの聖遺物(遺骨)が保存されており、毎年2月にはバルンタイン祭りが開催される。



6 グニェフ城

4つ星の古城ホテル 中世騎士団のパフォーマンスに興奮

ドイツ騎士団の拠点として築城。完成には40年もの年月がかかった。ゴシックの美しい城を中心に、敷地内に建つ2つの落ち着いた建物は4つ星の古城ホテルに。中世騎士の武術パフォーマンスを見学できる。
www.zamek-gniew.pl/en



3 グルジヨント Grudziądz

城壁のように見える倉庫群が圧巻 蚤の市も人気

ゴシックレンガ造りの穀物倉庫群(写真)は、ライトアップされると堅固な城壁のように見えて圧巻。プロイセンの支配時代には、一時宮廷がここに移ったことも。小高い丘に登れば、ヴィスワ川とグルジヨント盆地が目の前に開け、ポーランドの平坦さを体感できる。丘の上にあるチュートン騎士団の城は廃墟に。毎年6月の「グルジヨント祭り」では、蚤の市が人気だ。



7 マルボルク城 世界遺産

世界最大の ゴシックレンガ造りの城 ドイツ騎士団修道会の拠点

13世紀にドイツ騎士団修道会の本拠地として築城、難攻不落の城として知られる。下城、中城、高城の三層構造の城塞は、強大な修道会国家の首府となった。内部には集中床暖房などさまざまな工夫が各所に取り入れられており、中世にこのような設備があることに驚かされる。



4 ゴルブ=ドブジン Golub Dobrzyń

ショパンゆかりの地が 古城ホテルに

小高い丘に建つゴシックレンガの厳つい雰囲気。かつてショパンが訪れたこともある名城で、歴史的にもこの地を巡る争いが絶えなかった。現在は古城ホテルとしてリーズナブルに泊まることできる。定期的に騎士の一騎打ちや馬術などのイベントが開かれるので、事前に日程をチェックしたい。
www.zamekgolub.pl



8 グダンスク Gdańsk

バルト海に面した港湾都市 北ポーランドの拠点

ハンザ同盟の一員として発展し、現在でも重要な港町。旧市街のメインストリート、ドゥーガ通りは「王の道」と呼ばれる珍しい街路型の広場で、富裕な市民や貴族が築いた瀟洒な建物が軒を連ねる。明るく開放的な港町の空気にあふれ、ポーランドを訪れるなら必ず立ち寄りた場所のひとつだ。



ポーランド政府観光局

www.poland.travel
info.jp@poland.travel

羽田ーイスタンブール線で安定の運航スケジュール 欧州へ最速アクセス



**TURKISH
AIRLINES**

2018年10月に新たに開港したイスタンブール空港をハブとして世界128カ国329都市、欧州だけでも43カ国116都市にネットワークを広げるターキッシュエアラインズ。その世界一の路線網を活用したビジネスはコロナ禍でも好調だ。日本路線は現在のところ羽田ーイスタンブール便を毎日運航。日本からトルコおよび欧州各都市への旅行にとって欠かせない足となっている。

豊富な機内プロダクトで安心安全のフライト



ビジネスクラスの食事
(イメージ)

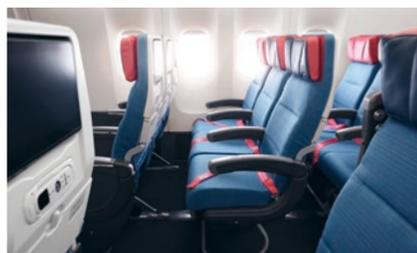
ビジネスクラスは
ゆったりとした空間を提供

豊富な機内プロダクトもターキッシュエアラインズが選ばれる理由のひとつ。777-300ERのビジネスクラスは、2-3-2の配列でシートピッチは198cm、幅55cmのフルフラットシート。エコノミークラスは、3-3-3の配列でシートピッチ78cm、広さ45cmとゆったりとスペースが確保されている。

ビジネスクラスの機内食では、シェフが同乗する「フライングシェフ」サービスを継続。トルコ流のおもてなしで、秀逸なトルコ料理などを提供している。



フライングシェフが乗務し、機内食を盛りつける
(一部フライトイメージ)



エコノミークラスも充実な設備で快適な旅を演出

このほか、羽田発着便には日本語を話すキャビンアテンダントが同乗し、機内エンターテイメントでも日本語メニューが豊富に揃うほか、コロナ禍の対応として、マスク消毒ハンドジェルなどをセットにした衛生キットも希望者に配布するなど、安心安全のフライトを提供している。



エコノミークラスの食事
(イメージ)

トルコへ、欧州各都市へ、利便性の高い羽田線

2022年2月から続くウクライナ危機によって、欧州路線を展開する航空会社はロシア上空を迂回するルートに変更しているが、ターキッシュエアラインズの羽田ーイスタンブール線のルートは以前と変わらない。平均フライト時間は往路12時間半、復路10時間15分で、現状欧州へは最速でアクセスすることが可能。この安定した運航スケジュールがターキッシュエアラインズの最大のメリットとなっている。

また、コロナ禍でもイスタンブール以遠の路線を拡大。羽田22時50分発の

TK199便は、イスタンブールに翌日早朝の6時25分に到着するため、最終目的地への同日乗り継ぎの利便性が高いのも大きな特徴だ。

羽田便の機材は従来のボーイング787-9からボーイング777-300ERに大型化している。これにより、ビジネスクラスは30席から49席に、エコノミークラスは270席から300席に増加しており、供給座席数を増やすことで、団体を含めさまざまな旅行タイプのニーズに答えている。



運航スケジュール（2022年10月30日～2023年3月25日）羽田ーイスタンブール間は毎日運航

	羽田		イスタンブール	運航曜日
TK199	22:50	→	06:25+1	毎日
	イスタンブール		羽田	運航曜日
TK198	02:50	→	19:45	毎日

スムーズな運営で旅客ニーズに応える新空港

2018年10月に開港し、2019年4月に全面移転が完了したイスタンブール空港もターキッシュエアラインズの競争力をさらに高めている。新空港は旧空港（アタチュルク空港）の約6倍以上の広さ。ターミナルも広大だが、すべてのフライトをひとつのターミナルで運営しているため、ターミナル間移動が無く、とてもスムーズな乗り継ぎが可能だ。ターキッシュエアラインズは新空港内に5600㎡のラウンジが2つ、また3500㎡の国内線ラウンジを備える。空港内では世界三大料理のひとつと言われるトルコ料理をはじめ、多彩なダイニングが楽しめる。また、ゴルフシュミレーターやVR体験ができるテクノロジーを駆使したエンターテイメントが楽しめる施設など、待ち時間が楽しくなる魅力が満載だ。

世界的に航空需要が急回復する中、人手不足のために混乱に陥っている欧

州の主要空港とは異なり、ターキッシュエアラインズはコロナ禍でも雇用を維持したことから、イスタンブール空港は以前と同様にスムーズな運営が行われている。

ターキッシュエアラインズによると、今年6月の乗客数はコロナ前の2019年と比べて4.4%増、7月31日には乗客数27万人と1日の記録として過去最多となったが、空港で目立った混乱は見られないという。



ビジネスラウンジ

イスタンブールを楽しむプログラムを展開 マイルキャンペーンも

同日乗り継ぎの利便性の高さが、ターキッシュエアラインズのメリットのひとつだが、一方で世界有数の観光都市イスタンブールにお得に滞在してもらう各種プログラムを展開している。自分の旅のプランに合わせて、「見る・買う・食べる」の3拍子が揃うイスタンブールも一緒に楽しんでもらおうというものだ。

また、今年9月に開催される「ツーリズムEXPOジャパン」に合わせて、マイル・キャンペーンも実施する。

ストップオーバープログラム「よっ得! イスタンブール」

このプログラムは、対象の国または都市を発着し、イスタンブールで20時間以上滞在するターキッシュエアラインズ利用者に無料のホテルサービスを提供するもの。

エコノミークラス利用者には4つ星ホテル1泊分、ビジネスクラス利用者には5つ星ホテルに最大2泊分の宿泊を提供。利用可能なホテルはいずれも観光に便利なイスタンブールの中心であるタクシムや旧市街にある。羽田便は早朝の到着だが、アーリーチェックインも可能だ。

このプログラムを利用すれば、欧州

への旅行のついでに、欧州とアジアの文化が調和したイスタンブールを1回の旅行で同時に楽しむことができる。1日6便運航のイスタンブール発パリ行きなど、イスタンブールから欧州各都市への便は豊富に揃うことから、自分のスケジュールに合わせて柔軟に旅程を組むことが可能だ。

このプログラムを利用するためには、出発国の指定メールアドレスへ申し込む。氏名、予約コードまたはチケット番号、宿泊希望日、連絡先情報が必要となる。

1日ツアーの「ツアーイスタンブール」

このプログラムは、ターキッシュエアラインズ利用者でイスタンブール空港での乗り継ぎ時間が6時間から24時間の旅行者を対象に無料でイスタンブールのシティツアーを提供するもの。パンデミック中は一時中断されていたが、今年7月1日からサービスの提供を再開した。

乗り継ぎ時間によって、6つの異なるツアーコースがあり、それぞれイスタンブールの歴史的遺産や伝統料理が楽しめる内容が組み込まれている。

申し込みは、イスタンブール空港に到着後、ターミナル内にある「Hotel Desk」で行う。

Miles&Smiles キャンペーン

ターキッシュエアラインズは今年9月22日～25日に開催される「ツーリズムEXPOジャパン2022」に合わせて、マイレージプログラム「Miles&Smiles」のキャンペーンを展開する。同航空のQRコードから会員になり、2023年6月1日までに同航空のフライトを利用すれば、5,000マイルをプレゼントする。

Miles&Smilesでマイルを獲得するには、さまざまな方法がある。ターキッシュエアラインズとパートナー航空会社のフライトで、マイルを獲得できるほか、プログラムパートナーが提供するさまざまな製品やサービス、

Shop&Milesでの買い物、Miles&Smilesクレジットカードの利用でもマイルを獲得することが可能だ。

また、獲得したマイルは、特典航空券、機内サービス、アップグレード、手荷物許容量の追加、数々のShop&Miles商品、プログラムパートナーの特別サービスなどに利用することができる。



旅のご褒美 よついで!

イスタンブール



市内ホテルの無料提供

エコノミークラスの場合は 4つ星ホテル1泊
 ビジネスクラスの場合は 5つ星ホテル2泊

特別レートでの延泊可能

ホテルの延泊が*\$49より可能
 *ホテルの空き状況により金額や条件が変わる可能性
 があります。



TURKISH AIRLINES



イスタンブールの街歩きガイド
 QRコードをスキャンしてください

Terms and conditions apply, visit turkishairlines.com